

胡隱君を尋ぬ（高啓）

水を渡り復水を渡り

花を看還花を看る

春風 江上の路

覚えず 君が家に到る

渡水復渡水 看花還看花
春風江上路 不覺到君家

解説 春の暖かいある一日、江上の風景を眺めながら胡某という
隠者を訪れた詩。

語釈 ※胡隱君 胡は姓。隱君は仕官しないで隱棲いんせいしている人。
※水 川の意。蘇州のあたりは川や堀が縦横に流れる水郷地帯で
ある。※江上 川のほとり。川のことを南方では江という。

通釈 あちらで川を渡り、またこちらで川を渡り、そして、あ
ちらで花を眺め、またこちらで花を眺める。このようにして、心地
良い春風のそよ吹く川のほとりの道をのどかに歩いているうち
に、いつのまにかあなたの家に辿り着いてしまった。